

2023 年度 経済・経営学会学生研究助成
報告書

オーストラリア・メルボルンでの国際フィールドワーク

五十畑浩平 (経営学部 教授)

2024 年 2 月 24 日から 3 月 4 日にわたり、オーストラリア・メルボルンにおいて国際フィールドワークの実習を行いました。学生は 2 年生 3 年生あわせて 12 名が参加し、西野先生と私のふたりが引率しました。

オーストラリア第二の都市メルボルンは、これまで何度も世界一暮らしやすい街に選ばれてきたことからわかるとおり、若者人口が多く、考えも柔軟で、様々な民族的バックボーンをもった多様性あふれる街です。南半球であるため現地は夏から秋にかけての気候でした。ただし、メルボルンでは 1 日のうちに四季があるとよく言われるように、寒暖の差が激しく、滞在中は服装選びに苦労しました。



フレンドーストリート駅の前での集合写真

今回の国際フィールドワークも現地でグローバル人材育成プログラムを多数手がけてきた DOA オーストラリアというエージェントの全面的なサポートを受けて実施されました。

本フィールドワークのもう1つの特徴はホームステイです。12人それぞれが現地の家庭にホームステイし、英語力の上達はもとより、より現地の人々と接してもらい、現地の実態をより深く知ってもらうことにねらいがあります。

成田を經由し2月25日(日)朝メルボルンに到着した私たちは、研修会場となったホテルに移動しました。そこで、現地での生活の注意点と研修スケジュールについてのオリエンテーションと、主要な場所や交通機関の使い方などについてシティーガイドを受けました。午後は、異文化理解などに関するデスク研修を行い、このフィールドワーク実習での目標を各自設定するとともに、設定した目標を各々発表しあいました。

26日(月)には、学生たちが3グループに分かれ、メルボルンの街中を舞台にシティーウォークを行いました。このプログラムは、メルボルンやオーストラリアに関するクイズを、与えられたヒントをもとに、現地の人々の力も借りて解いていくゲーム形式の研修です。この研修により、現地の人々とコミュニケーションする力などが育めました。教員はあえて引率せずに学生同士で街中を散策し、メルボルンの街について深く学ぶというまさにリアルな「フィールドワーク」が実現でき、学生の主体性や学生同士のチームワークも向上できたようです。

27日(火)にはメルボルン大学を訪問し、3名の現地学生と交流を行いました。現地学生がそれぞれ日本人学生の3グループを担当し、キャンパス内を案内してくれるとともに、学内の教室でグループディスカッションを行い、親睦を深めました。



メルボルン大学にて現地の大学生と交流

28日(水)には、日本で言う中学1年生から高校3年生が通う **Kew High School** を訪問しました。中学1年生のクラスと高校3年生の日本語クラスで、学生たちはティーチングアシスタントとして授業活動に参加し、現地校の生徒たちと交流をはかりました。

29日(木)、オーストラリア全土でリサイクル事業などを展開している慈善団体サルベージョン・アーミーのメルボルン支店で、仕分け、品出しなどの職場体験をしました。午前と午後とで持ち場を変えるなど、さまざまな役割を体験するなかで、オーストラリアでの働き方などについて日本のそれとも比較しながら考える絶好の機会となりました。

全体研修の最終日である3月1日(金)は、現地の大手コーヒーチェーンである Market Lane Coffee を訪問しました。現地で日本人焙煎士として活躍されている石渡俊行さんに会社内や工場内を案内していただいたり、積極的に学生たちの質問に丁寧にお答えいただきました。



Market Lane Coffee への企業訪問

メルボルン滞在もわずかとなった週末の2日間は、自主研修日として、各自の課題を解決したり、観光スポット巡るなどして、各学生とも思い思いに自由な時間を過ごしました。

メルボルンで行われた国際フィールドワークの実習やホームステイ体験を通し、英語力の上達はもとより、異文化の理解、異文化への適応、多様なものの考え方、グローバルな発想の仕方など、今後グローバルに活躍する人材にとって重要な要素を短期間で吸収することができたことでしょう。また、こうした成長体験を踏まえ、自分自身の将来のキャリアについても多くの収穫が得られたように思えます。

なお、学生の渡航費の一部を本助成から援助いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。